

富山経済同友会

会報

2022.1月
No. 305



年末懇親会（12月7日）

CONTENTS

- 12月会員定例会・年末懇親会 …………… 2
- 新会員歓迎オリエンテーション・懇親会 … 3
- 第9回ごきげんよう職場訪問 …………… 4
- (公社) 経済同友会 ワークーション実証実験受入れ… 5
- スケッチオーデション …………… 6
- 第3回人財活躍委員会(拡大委員会) …… 8
- 課外授業等講師派遣 …………… 9
- 教育講演会等講師派遣 …………… 13
- 第2回教育問題委員会 …………… 16
- 第2回委員長会議 …………… 17
- 大分経済同友会来県 …………… 17
- 第81回あけぼの会 …………… 18
- リレーエッセイ¹⁰⁶(林 和夫 氏) …………… 19
- 活動報告 …………… 20
- トピックス(フィールドワーク冊子、大学授業に活用) … 22
- 富山景気定点観測アンケート結果 …………… 23
- 今後の予定 …………… 23
- わが青春の1枚(小杉 康夫 氏) …………… 24

令和3年の締めくくり 会員が一堂に会す

12月会員定例会・年末懇親会

令和3年を締めくくる12月会員定例会・年末懇親会が12月7日(火)、ANAクラウンプラザホテル富山で開催され、会員・来賓約200名が出席した。

◆12月会員定例会

12月会員定例会は企業経営委員会（伊勢徹委員長）が主管し、アイリスオーヤマ株式会社代表取締役会長で（一社）仙台経済同友会終身幹事の大山健太郎氏が「いかなる時代環境でも利益を出す仕組み」と題して講演を行った。

大山氏はまず、19歳で家業を継承した後、時代に対応して業態を転換してきた同社の歴史を振り返った。そして、オイルショックで倒産寸前となった経験から、企業理念の第1



大山 健太郎 氏

条には「会社の目的は永遠に存続すること。いかなる時代環境に於いても利益の出せる仕組みを確立すること」を掲げ、不況の時も利益を出し続ける経営を目指していると説明した。

続けて、常に消費者の立場で、ユーザーの不満、不便を解決する「ユーザーイン」の発想で需要を創造し続けてきたこと、製造と問屋機能を併せ持つ「メーカーベンダー」で流通の無駄を省き、市場を創造してきたことなどを紹介した。

最後に、急な変化に対応できるように工場稼働率を7割に抑えるなど、同社の経営はビジネスチャンス優先



であり、「余裕は利益につながる」としたうえで、「業種にとらわれることなく、自社の強みをつなげていくことが、大きなビジネスチャンスにつながる」と述べ講演を締めくくった。

（講演詳細は、次号3月の会報に掲載予定）

◆年末懇親会

続いて年末懇親会が開催され、来賓に定例会講師の大山氏を始め、富山県から新田八朗知事、横田美香副知事、荻野佳子教育長、三牧純一郎知事政策局長、助野吉昭地方創生局長、岡本達也経営管理部長、布野浩久商工労働部長、富山県市長会から夏野修会長（砺波市長）、（一社）仙台経済同友会の川嶋輝彦常任幹事・事務局長をお招きした。



懇親会での新型コロナウイルス感染防止対策について事務局から説明した後、麦野英順代表幹事が「コロナの収束とその後の経済の飛躍を願っている。われわれ同友会が地域経済を盛り上げていくため、来年も積極的な活動への参加をお願いしたい」と開会の挨拶を述べた。



麦野代表幹事

続いて来賓を代表して新田知事が挨拶し、夏野市長会会長の発声により、当会では恒例となった地酒で乾杯が行われ、懇親会は和やかな雰囲気うちに始まった。



新田知事

懇親会ではアイリスオーヤマ(株)が開発した



夏野市長会会長

AI搭載の配膳・運搬ロボットのデモンストレーションが行われ、テーブルまで正確に料理を



配膳・運搬ロボットのデモンストレーション

運ぶロボットに参加者は関心を寄せていた。また懇親会会場前のロビーではAI除菌清掃ロボットのデモンストレーションも行われた。

最後に、塩井保彦代表幹事が閉会の挨拶を行い、「今年も昨年と同様、ウイズコロナの中であって、同友会の活動もオンラインの活用を余儀なくされるなど制約があったが、来年も積極的な同友会活動をしていきたい」と語り、盛会の内に懇親会は終了した。



塩井代表幹事

ようこそ！富山経済同友会へ ～ 新会員歓迎オリエンテーション・懇親会 ～

企画総務委員会（桶屋泰三委員長）は、11月9日(火)、令和3年1月以降に入会・交代された新会員を対象としたオリエンテーション・懇親会をホテルグランテラス富山で開催し、新会員42名を含む63名が参加した。本行事は新会員の方に当会の活動を理解いただくとともに、役員らとの親睦を深める目的で毎年開催している。



オリエンテーションでは、まず、塩井代表幹事が「新型コロナウイルスの流行で今年はまだ懇親会が出来なかった。久しぶりの懇親会であり新会員の皆様との交流を深めたい」と新会員への歓迎の言葉を述べ、引き続き「富山経済同友会について」と題して当会のこれまでのあゆみ・活動理念・活動状況等について説明し、行事・委員会への積極的な参加を呼びかけた。



塩井代表幹事

次に、事前に書面でいただいた自己紹介コメ

ントを事務局が読み上げ、新会員を紹介した。

その後の懇親会では、麦野英順代表幹事が乾杯を行った後、出席した役員一人一人を新会員に紹介。そして、富山と昆布の関りについて北前船や昆布ロードなどの歴史的背景を交えて解説し、「富山を知って好きになっていただき、共に同友会活動をしていきましょう」と語った。



麦野代表幹事



終わりに、企画総務委員長の桶屋泰三副代表幹事が「新会員の方々には同友会活動に積極的に参加し、新風を吹き込んでいただきたい」と挨拶し、盛会のうちに閉会した。



桶屋副代表幹事



世界で勝てるものづくりとは

— 第9回ごきげんよう職場訪問 —

企業経営委員会（伊勢徹委員長）は、11月5日（金）に第9回ごきげんよう職場訪問を開催し、委員20名が参加した。

一行は最初に、(株)エムダイヤを訪問。森弘吉代表取締役のご挨拶の後、新入社員の道林桃香さんから会社概要・製品に



(株)エムダイヤにて

ついて説明を受けた。当社は独自技術のリサイクル機械の製造・販売、各種機械の改造・修理のほか、アルミの再資源化を仲介する新たなビジネスモデルを構築するなど、『『もったいない!』をカタチに』を企業理念に掲げて総合環境企業を目指している。自動車・通信・家電の3業界を中心とした大手企業との直接取引、提案から設計、製造、販売まで自社一貫体制が強みであり、さらなる海外展開を視野に自社製IoT技術の活用を進めていることなどを紹介いただいた。

工場に移動後、営業部の荒木悠那さんに、切断機、分離・破碎機、基板剥離機の特長や性能について、実演を交えながら分かり易く解説いただいた。



工場内での説明

ものづくりの現場で若い女性社員が活躍している姿が印象的であり、工場見学後の質疑応答では、社名の由来、脱炭素化の取り組み等とともに、社員教育の秘訣についても質問がなされた。

次に、YKK AP(株)黒部製造所を訪問。YKK50ビル内で昼食を招待いただいた後、国際会議場で、浅野慎一YKK(株)副社長からご挨拶、松山武弘黒部グループ長から会社概要の説明が

あった。当社は「善の巡環」を事業活動の基本に、メーカーの本質であるものづくり（商品）にこだわり続けてきた。「社会を幸せにする会社」を目指し、住宅、ビル、エクステリア事業、世界トップクラスの高難度物件に挑戦しているファ



YKK50ビル 国際会議場にて



ウエルカムボードを前に

ード事業等に取り組むとともに、本社機能の一部移転を進め、東京と黒部の両拠点の有機的活用を図るための機能強化や環境整備、黒部駅前の賑わい創出にも貢献していることなどについて話を伺った。

その後、3班に分かれて、羽馬隆人北陸支社長、旭保成富山支店長、太田隆之富山支店営業部長に同行いただき、丸屋根展示館、鋳造・大型押出・表面処理の3工場を見学。YKK 創業者 吉田忠雄氏の企業精神やものづくりの原点、60年を超える歴史を感じさせる技術の歩み、自動化された製造現場などを案内いただき、世界に誇れる「技術の総本山」の一端を感じることができた。

最後に、宇奈月麦酒館に立ち寄り、地ビールを味わいながら、富山県のものづくり産業の魅力について語り合った。



宇奈月麦酒館にて



地方創生のさらなる推進を ～ワーケーション実証実験を実施～

人財活躍委員会（中澤宏委員長）は、(公社)経済同友会 地方創生に向けた実態調査ワーキング・グループ（以下、「地方創生 WG」）と連携し、11月4日(木)～5日(金)にワーケーション実証実験を県内で実施した。ワーケーションは、「ワーク」と「バケーション」を組み合わせた造語で、観光地やリゾート地でテレワークを活用し、働きながら休暇をとる過ごし方であり、地方での関係人口の創出による移住・定住の促進に注目がされている。

地方創生 WG は(公社)経済同友会の会員企業の幹部や事務局で構成され、今回は10名が訪れた。2日間にわたり県内のコワーキングスペースでのテレワーク、各企業や施設および自治体や大学を訪問し、地方創生に向けた取組みについてヒアリングや意見交換会を実施した。なお、11月6日(土)～7日(日)は各自で県内観光（バケーション）が行われた。

参加したメンバーからは、転職しない移住が注目されるなか、北関東などが移住の候補先として選ばれているが、富山も交通の便を考慮すると、そのパターンに当てはまるため、積極的な情報発信

が鍵になるとの意見があった。また、コワーキングスペースについては、インターネット回線やWEB会議用の個人ブース、プロジェクター等の備品の充実が重要であるとの意見があった。

その他、市街地から見える立山連峰の美しさに感嘆する声や、富山という土地のポテンシャルの高さを実感したといった声が上がった。

(公社)経済同友会では全国で実施したワーケーション実証実験を報告書として取りまとめる予定であり、今後分析結果のフィードバックがなされる。



ギャルリ・ミレーにて



榊田酒造店にて

【行程表】 1日目：11月4日(木)

視察・訪問先	内 容
① HOKUGIN ギャルリ・ミレー 【麦野代表幹事】	・ 麦野代表幹事とのご挨拶
② ビジネスインキュベーション施設 HATCH 【(株)日本海ラボ 今泉 大哲 氏】	・ HATCH 視察
③ ヘルジアンウッド 【前田薬品工業(株) 代表取締役社長 前田 大介 氏】	・ 意見交換：ヘルジアンウッドの取組み
④ 立山 KOTELO 【(株)フクール 代表取締役社長 福崎 秀樹 氏】 【立山町 企業政策課】	・ KOTELO 視察 ・ 意見交換：立山町の地方創生テレワークの取組み
⑤ (株)榊田酒造店 【(株)榊田酒造店 代表取締役社長 榊田 隆一郎 氏】	・ 意見交換：地域の資産価値を活かした岩瀬のまちづくり

2日目：11月5日(金)

視察・訪問先	内 容
① 県内コワーキングスペースにてテレワーク	
② 富山県との意見交換会 【ワンチームとやま推進室 地方創生・地域振興課】 【ワンチームとやま推進室 移住・U・I・Jターン促進】 【ワンチームとやま推進室 地方創生・地域振興課】 【商工労働部 労働政策課 雇用推進班】 【商工労働部 地域産業支援課】	・ 意見交換：地方創生テレワークの推進による分散型社会の実現 都市部企業の専門人材と地域企業とのマッチング
③ 富山大学 【富山大学 学長 齋藤 滋 氏】	・ 意見交換：データサイエンス等の取組み
④ (株)カターレ富山 【(株)カターレ富山 代表取締役社長 左伴 繁雄 氏】	・ 意見交換：スポーツを通じた地方創生への取組み
⑤ 富山市との意見交換会 【富山市長 藤井 裕久 氏】 【富山市企画管理部 行政管理課】	・ 意見交換：富山市のPPP/PFIの取組み

11月6日(土)～11月7日(日)は各自で県内を観光



起業家創出に向けて

～ スケッチオーデション開幕～

人財活躍委員会（中澤宏委員長）の起業家支援事業「スケッチオーデション」が11月3日（祝・水）に開幕した。本事業は富山ニュービジネス協議会、とやま未来共創チームと共催する地域人材の育成・発掘を主目的としたビジネスプランコンテストであり、3月21日（祝・月）の決勝大会に向け、参加者を育成するプログラムとなっている。

プログラムには富田欣和氏（関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科 教授）とゲスト講師をお招きし、参加者には講義やワークショップを通じて、ビジネスプランの検討に必要な考え方がインプットされる。

決勝大会を目指し、ビジネスプランを検討、提案する「参加者」を30名、本プログラムの参加者に伴走し、ビジネスプランの検討プロセスを支援する「メンター」を10名募集したところ、参加者56名、メンター18名と定員の倍に近い申込があり、厳正な選考を行い、参加者・メンターが決定された。

今後、全11回（Day1～Day11）にわたり、富山駅前CiC内の「スケッチラボ」で勉強会、発表会が行われ、起業や新規事業を志す人材の活発な活動がなされる。

● Day1〔11月3日（祝・水）〕

開幕にあたり、中澤委員長および村上副委員長から挨拶があり、参加者およびメンターへの激励の言葉が述べられた後、富田氏からの講義が始まった。富田氏はまず、多様性はイノベーションの価値を高め、自分たちのビジネスの結果をより良くすると説いたうえで、今回のスケッチオーデションで個人のビジネスプランを検討する際にも、他の参加者、メ



中澤委員長



村上副委員長

ンターとのチームビルディング、仲間づくりが必要であると訴えた。

その後は「富山発のタピオカ屋を開業する」をテーマにグループワークが行われ、事業コンセプトの検討がなされた。富田氏から各グループへのフィードバック後、マーケットリサーチの落とし穴について説明され、VUCAの時代においてはいかに速くフィードバックサイクルを回し、仮説を検証し、成功の蓋然性を高めるかが勝負であると述べられた。

最後に、ビジネスプランや物事を考える際には、まず質の高い「課題」を選定することが重要であると説き、普通の課題からイノベティブな答えを導くのではなく、イノベティブな課題を普通に解くことで、イノベティブな答えが生まれると訴えた。

またメンターには別室にて、渡辺今日子氏（慶応義塾大学 システムデザイン・マネジメント研究科 特任教授）からメンタリング概論の講義がなされた。渡辺氏からはメンターの役割は、アウトプットに導くアドバイスをすることではなく、参加者自らがより良いアウトプットを生み出せるよう成長を支援することであるとの説明があり、チームを活性化させるための考え方や手法がレクチャーされた。



富田氏



渡辺氏



メンタリング講座（メンターのみ）

● Day 2〔11月27日(土)〕

Day 2 から Day 4 は、ビジネスプランを検討するためのプロセスについて順を追ってレクチャーが行われる。この日はまず、富田氏から自分の事業に影響を与える可能性がある懸念事項を把握する「外部環境分析」、ステークホルダーの懸念事項を把握する「ステークホルダー分析」について説明があった。その後、これらの分析で得た『インサイト(気づき)』をもとに、自分たちが解くべき課題を定義することが重要であるとの説明があり、問題定義のための手法が紹介された。

参加者には「富山発、コーヒーチェーン店を作る」というテーマが与えられ、レクチャーされた各プロセスとその手法を使用し、グループワークが行われた。



グループワーク発表

● Day 3〔12月4日(土)〕

Day 3 は事業における「価値」を分析することに焦点を当ててレクチャーがなされた。富田氏は価値というのは「誰かにとって役に立っているかの度合い」であると説明し、事業において顧客やステークホルダーに対してどんな価値があるか明らかになって初めて、収益性や市場性、採算性といった検討ができること訴えた。その後、自らの事業を取り巻くステークホルダーにとっての価値を把握する「Pain/Gain 分析」が紹介され、グループワークにて効果が検証された。

次に、各事業において自分たちが解くべき「課題」を問題定義し、文章化する演習が行われた後、その課題を解くことで、事業においてどのような価値が創出されるかを可視化するグループワークがなされた。可視化にあたっては、ステークホルダー間の価値の流れを図式化する「顧客価値連鎖分析」および顧客価値連鎖分析で明らかになった価値の流れがどのような欲求

に基づいて成立しているのかを把握する「欲求連鎖分析」という2つの手法を用いて作業が行われた。

最後に、富田氏は他社・他業界のビジネスモデルから学ぶことは多いとしたうえで、優れたビジネスモデルは「市場性がある」「模倣されない」「収益性がある」「フレキシブルである」の4つの要素を満たしていると説明し、主要なビジネスモデル例の紹介を行った。



グループワークの様子

● Day 4〔12月18日(土)〕

Day 4 は実際に事業を検証する「プロトタイプング」について説明があった。富田氏はプロトタイプングの際には、何を確認したいのか明確な目的をもって行う必要があると述べ、「正しく機能するか」、「自分が望む結果だったのか」を確認することが重要だと訴えた。その後、自分たちのビジネスプランにどういったプロトタイプングの方法があるか、グループワークにて検討が行われた。

最後に富田氏から、イノベーション創出を志す人は批判や失敗、不確実性などに晒され、本来持っていた自信が削られていくと語った。そのうえで、自信を得るために何か新しいスキル等を身につけるのではなく、本来持っていた自信を「取り戻す」ことが重要であるとし、そのためには日ごろから一歩ずつ行動し、小さな成功体験を積み上げることが大切であると説明した。



富田氏



高度外国人材活用のススメ

～ 第3回人財活躍委員会 拡大委員会 ～

12月17日(金)、第3回人財活躍委員会(中澤宏委員長)拡大委員会がパレプラン高志会館で開催され、オンラインでの視聴を含め70名の会員が出席した。今回はジェトロ富山と共催し、高度外国人材の活用に関するオンラインセミナーを実施した。

冒頭、中澤委員長からの挨拶があり、その後、9月に会員に実施した「地域における高度外国人材の活用に関するアンケート結果」について担当の浅林副委員長から報告があった。



中澤委員長

浅林副委員長は、半数の県内企業が高度外国人材の雇用に関心を持っている一方で、企業側の人



浅林副委員長

事制度などの受け入れ態勢、コミュニケーション能力が不十分であることが課題であると指摘した。また、県内企業の大半は高度外国人材確保への切迫感がそれほど強くない一方で、首都圏に本社を有する企業では高度外国人材を日本人と同様に経営者候補として採用しており、受け入れ態勢が準備されている事例も見受けられたと説明した。

続いて、株式会社ヨニチ 代表取締役社長 高梨洋一氏から「地方企業の海外ビジネス展開における高度外国人材の活用」と題して、オンラインでの講演があった。



高梨氏

高梨氏はまず、富山県や全国における外国人材の人口や就業状況について言及し、高度外国

人材は近年就労数が増加しており、なかでもベトナム、ネパールなどの新興国が伸長してきていると説明した。次に外国人材活用のメリットは、自社の多様性を引き出すこと、既存社員・マネジメントの意識変化を促し自社の変革のきっかけとなること、販路の拡大や人手不足を解消すること、にあるとし、外国人材を活用した企業の事例を紹介した。最後に、外国人材の離職防止・定着・活躍についてレクチャーがあり、まずは「コミュニケーション」により日本人と外国人の違いを理解し、それに合わせてお互いが変容すること、そして外国人社員を一人にしない仕組みを作り、エンゲージメントを高める「マネジメント」が重要であると訴えた。

その後、活発な質疑、意見交換がなされ、参加した各委員にとって知見を深める貴重な機会となった。

最後にJETRO富山 所長 高村大輔氏、JETROビジネス展開・人材支援部 国際ビジネス人材課 課長代理 余田知弘氏からJETROの取組みと支援メニューについて説明があり、外国人材・教育機関、関係府省庁・機関、日本の中小企業の3つを繋ぐポータルサイトおよび外国人材の受け入れをコーディネーターによってサポートする伴走型支援サービスについて紹介があった。

委員会終了後は、人財活躍委員会では今年度初の懇親会が開催され、参加した会員やJETRO関係者による交流が行われた。





課外授業講師派遣

— Elementary School Edition —

第15回 射水市立中太閤山小学校

令和3年11月9日(火)、射水市立中太閤山小学校において、6学年59名を対象に「夢を持とう、追いかけてよう、そして叶えよう～夢と目標と目的と…～」と題し課外授業を行った。

遊道社長はじめに「あなたの夢は何ですか」をテーマに、隣の生徒同士で話し合うよう呼び掛けた。同じテーマで話し合っても①“なれたら”いいです、②“なりたい”です、③“なること”です、という表現はそれぞれ、①は希望、②は欲望、③は目標を意味するとし、言葉の不思議さ・大切さを説いた。

次に、人生で大切なことは①願望を具体的に“決めること”、②感じたこと、思ったことなどを“分かち合うこと”、③自分や相手に対し“正直なこと”であるとし「人生は決めること選択の連続。起こった出来事、過ぎた時間は元に戻らないが、そのことに対しどのような“前向きな意

味付け”をするかが大事。これは、その努力をしたものだけが得られる習慣である」と語りかけた。そして「今の自分を卑下せず可能性を信じ、今の自分に満足せず持てるだけの選択肢を持つこと、その為の努力をすることが重要である」と訴えた。

最後に、目的と目標の違いに触れ「人生において、目的とは追求するものであり、目標とは達成するもの。人生の目的を早く見つけた方が目標の設定はしやすいが、目的がみつからなくとも目標を達成していくうちに方向性は見いだせる。時間をかけて努力し一生懸命生きることが大事。どんどん成長しよう」とエールを送り、講演を締めくくった。



「夢を見つける秘訣は、常にアンテナを高くすること、感性を磨くこと」と遊道社長

— Highschool Edition —

第18回 富山県立富山高等支援学校

令和3年12月14日(火)、上田信和氏(砺波工業(有)取締役社長)が富山県立富山高等支援学校において、全校生徒52名を対象に「夢に向かって付けたい力」と題し課外授業を行った。

上田社長はまず、座右の銘は「疾風に勁草を知る」であるとし「日頃から、逆境であってもこれに耐えられる人間になりたいと考えている。みなさんも辛い時があっても諦めず、強い意志を持とう」と語りかけた。さらに「皆さんの夢は何ですか?」と問いかけ、自身が高校生の頃、バンドを組みたいと思っていたことに触れ「早いうちから、やりたいこと・こんなことがしたいなど想いを巡らせることが大事」と説いた。

次に、モノや情報が世の中に広がる速度、時間の流れが急速に速くなると同時に、大きな変化も起きているとし「ダーウィンは“唯一生き残れるのは変化できる者”と言った。変化に対

応する力を身に付けることが今後さらに必要」と訴えた。続けて、社会人に大事な3つの力は①前に踏み出す力、②考え抜く力、③チームで働く力であるとし、この力の習得を下支えする要素は基礎学力、専門知識、人間性・基本的な生活習慣であり、とりわけ挨拶や思いやりなど人間性・基本的な生活習慣が最も大事」と強調した。

最後に、歌手・さだまさしの楽曲「主人公」(1978)の一節を引用し「自分の人生においては自分が主人公。自分の想いややりたいことを見つけ、一生懸命生きることが大切。そのためにもぜひ、3つの力をつけよう」とアドバイスし、講演を締めくくった。



「色んな個性を社会は求めている。みんなも頑張っしてほしい」と上田社長

第19回 富山県立雄山高等学校

令和3年12月16日(木)、川合紀子氏(有)ステップアップ代表取締役)が富山県立雄山高等学校において、1学年150名を対象に「働くこと、学ぶこと」と題し課外授業を行った。

川合代表はじめに、自分の進路を考える上で、日々の勉強などが思うようにいかないこともあるのではとし「悩むことも多いと思うが、出会いがあった時に成果が生まれる。まずはチャレンジしてみしてほしい」と説いた。続けて、悩んだ場合の考え方として「将来の目標・ありたい姿を描き、その実現に向け計画を立てることがポイント。将来の自分を思い描くことを少しずつ始める」とアドバイスした。

次に、特に平成以降は技術・サービスが顕著に発展し、世代間の生活スタイルも大きく変化してきたとし「先の見えない予測困難な時代に

突入する中で、従来のものの見方を変えていくスキルが求められる」と強調した。続けて、社会や学びも大きく変化しているとし「進路を考える際、時代の変化に合わせた自分の価値観を持つことは、未来を切り拓くために不可欠である」と訴えた。

最後に、何のために働くかはそれぞれ違って当たり前とし「考え方や価値観は、今まで学んだ知識や経験、出会った人との関係等から形成されていくもので、人間的成長は働くことを通じ人間としての魂を磨くことで得られる。変革の時代、自分の行動のものをさし(判断基準)を持とう」とエールを送り、講演を締めくくった。



「意識して行動する人とそうでない人は時間の経過と共に違いが出る」と川合代表

第16回 高岡市立南星中学校

＜荒井洋平氏（㈱宝来社代表取締役）＞

荒井代表はまず「デザインって何？」と語りかけた。ポスターや色・形・模様、デザイナーなど、多くは見た目のことを思い浮かべるのではとした上で「イメージやアイデアを形にすることや設計図など伝えたいことを形にする、何かを計画して実現することもデザインの重要な要素。音や匂い、触れることをデザインする人もいる」と、デザインの幅広さ、奥深さを説いた。



次に、デザインには必ず目的があるとし「ステップ・ジョブズは“デザインは単にどう見えていたり感じたりするものではない。デザインはどう機能するかである”と言った。例えばお店をつくる場合、単にお洒落、かっこいいではなく、売上アップなどの課題があり、それを解決するために計画・実行するのがデザインの役割。結果として美しくればよいというのがデザインの本質」と訴えた。

最後に、世の中の見えている物の大半はデザインされており、物だけでなくまち全体をデザインする職業もあるとし「自分の好きなものを題材に、誰がデザインしたのかなど想像を膨らませてみよう。ここから様々な仕事、職業が見えてくる。働くことは社会と関わること。自分はどう社会と関わるのか、考える練習をしてみてもは」とアドバイスした。

＜碓井一平氏（Labore ㈱代表取締役）＞

碓井代表はまず、中学生の時点で既に、個人が持つ能力の面で平等ではないとし「自分で努力しなければその差は絶対に埋まらないし、愚痴をいっても誰かのせいにしてもスタート位置は変わらない。今後の人生で様々な選択に迫られるが、同じ学年・クラスでもスタート位置が違うことを今から理解すべき」と強調した。



次に「1日のうち12時間以上熱中できることはあるか」と問いかけ、絵を描くこと、昆虫の勉強と答えた生徒を称賛し「寝食を忘れて好きなことに集中できるのは素晴らしい。やりたいことは自ら見つけることが必要。野球に例えると打席に立たないとヒットやホームランは打てない、三振でもいいので数多く立つことが重要」と説いた。

最後にお金がないからできないという考え方はやめて欲しいとし「お金はとても大事だが単なる道具に過ぎない、お金のために人生を決めるのはもったいない。お金のために生きるのではなく自分のために生きてほしい。大きな夢を描いた人が、大きなことを成し遂げられる。みんなにはたくさんの可能性がある、必ず成し遂げられるとは限らないが夢無くして努力はできない。自分のやりたいこと、自分のために命を燃やして」と熱いエールを送り、講演を締めくくった。

＜土屋誠氏（日本海ガス㈱取締役社長）＞

土屋社長はまず「あなたは将来どんな仕事に就きたいか」と問いかけた。大半の生徒が決まっていなと回答したのを受け「気にしなくてよい。時間を大切に、見聞を広めながら考えていけばよい」とアドバイスした。さらに「今後、どんな仕事に就きたいか、からどの会社に入りたいかや仕事内容の希望など、視点が変わるかもしれない。大切なのは、どの仕事に就くかより毎日楽しくやりがいを感じ幸せと思えるよう、働くことに向き合えるかである」と訴えた。



次に、東日本大震災の際に東北のガス事業者への応援に社員15名が志願し、任務を遂行してくれたことを紹介し「出世や給料も大事かもしれないが、個人やチームで目標を成し遂げる達成感や会社の使命を担う責任感、誰かの役に立つ満足感を働く意義として捉えている社員も多く、この気持ちはとても大切である」と強調した。

最後に、自分が頑張っとうれしいと感じたことを問いかけ、部活や合唱コンクールを挙げた生徒を称賛し「希望が必ずしも叶うとは限らないが、働くこと・仕事とどう向き合い、何にやりがいを感じるかが重要。学校生活の中で感じたことを、働いても同じ気持ちを味わうために今、頑張ることが大事」とエールを送り、講演を締めくくった。

＜羽根敬喜氏（富美菊酒造㈱代表取締役）＞

羽根代表はまず、自己紹介として子供の頃からお酒へのイメージが良くないまま他社で修行し「送別会で“君は酒づくりせず経営に専念した方がいい”と言われ、落ち込んだ気持ちの中で継いだ」ことを語り、何事にも一生懸命取り組むことの重要性を説いた。



次に、家業を継いだ当初は経営の危機の中で、品評会で受賞する酒を造るも状況が改善されなかったこと、酒づくりに対する真摯な姿勢が足りないと指摘されたことを契機に自らが商品開発・醸造に従事したエピソードを紹介し「この頃、お金への執着心がなくなり、価格に関係なく技術を全力投入しお客様に信頼される商品づくりが必要と感じた」と語り、お金のためだけでなく、人を喜ばせるものづくりの大切さを訴えた。

生徒から「仕事は楽しいか、やりがいや苦勞は」と尋ねられ「辛いことも多いが、遠方からお酒を買いに来られたり、感謝された時は幸せな気持ちになる。やりがいとともに、真剣に仕事に向き合わなければと感じる」と答えた。また「くじけそうになった時の立ち直り方は」との問いに「自身は失敗の連続だがそこから学んできた。諦めずリベンジの機会が必ず来ると信じ、努力し続けることが重要」とアドバイスした。

令和3年12月3日(金)、高岡市立南星中学校において、2学年172名を対象に課外授業を行った。「社会に学ぶ14歳の挑戦」の代替として実施され、当会より講師8名を派遣した。生徒は希望する講師2名分の講演を聴講した。

<尾山謙二郎氏 (マンパワーセキュリティ㈱代表取締役)>

尾山代表はまず、各々の個性が絡み合い、上下関係なく時代を創る、つながりの社会へと今後急速に変化すると指摘し「自立や自己責任がさらに強く求められる」と強調した。続けて、時代が変わろうとも不変なものがあるとし「自分の中でものさし(判断基準)を持ってほしい。それが本当かを見極めること、損得や正誤ではなく“善悪”で判断することが重要」と説いた。



次に、終末期医療従事者の著書に、患者に後悔していることをアンケートした結果 ①色々挑戦しておけばよかった、②もっと自由に生きればよかったが多数を占めたことを紹介し「何事も挑戦が大事。涙が出るほど一生懸命取り組んだ時の挫折は意味が生まれ、大いに学べる」と語りかけた。さらに、後悔はやらなかったこと、反省はやって失敗したことに対するものとし「39歳の時に、学びが必要と感じ通信制の大学に入学した。取得学位自体は在學生と同じだが、18歳の時に学ぼうとしなかったのは一生の後悔、後悔する人生は送ってほしくない」と訴えた。

最後に、人生は選択の連続であり、今あるものから選ぶのも、自分で創り出すのも答えであるとし「答えを創るために勉強が必要。みなさんの存在は先祖の誰ひとり欠けても成らず、もはや奇跡。それだけ、みなさんには価値がある。何事も一生懸命取り組んで」と熱いエールを送った。

<京田憲明氏 (㈱富山市民プラザ代表取締役)>

京田代表はまず「あなたが今、22歳の社会人として一人暮らしする場合、1か月あたり何にいくら必要か想像してみよう」と問いかけた。生徒に費目を挙げてもらいながら「自分が暮らしたい生活に必要な収入を考えることは、進学・就職など様々な岐路で選択する道を考えることにつながる」と語りかけた。さらに、収入を得る手段として働くことは大切とした上で「生きがいを感じるなどの自己実現や社会に参加することも働くことの重要な目的」と訴えた。



次に、前職である公務員の仕事・役割について民間企業で働くこととの違いを基に説明するとともに、働く形態として正規雇用・非正規雇用があるとし「それぞれの長所・短所を理解した上で、どの働き方を選択するか考えることが重要」と説いた。続けて、社会人として初めて勤務した部署異動した部署でのエピソードを紹介し「どんな仕事でも積極的にやっているとなんか楽しくなってくるし、他人も認めてくれる。面倒な仕事は達成感・充実感も大きく、面白い」と強調した。

最後にもう一度、あなたが今、22歳の社会人だったらと想像しようとし「長期の見通しを持ち、自分の生き方を考える必要がある。自分が望む姿の実現は容易ではないが、まずは、自身の考えをしっかりと持つことが最も重要」とアドバイスし講演を締めくくった。

<開章夫氏 (昭和建設㈱代表取締役)>

開代表はまず、働いてお金を稼ぐことは生活していくためには必要とした上で「働く意義はそれだけではない。他の人ができないことを代わりにやってあげるなど誰かの役に立つこと、不便なことを便利にし人を喜ばせることも働く重要な意義である」と説いた。



次に、建設業の仕事内容は以外に知られていない面があるとし、建設業は土木と建築とに大別されること、職種として、土工やとび職などある作業に特化して担う、いわゆる“職人”や、工事全体をまとめ設計、工程・品質管理を担う現場監督などを、動画を交えて紹介。「新しく建設することや補修・更新だけでなく、災害復旧や除雪なども建設業が担う重要な役割。地域のために大きな役に立つ仕事であり、手がけた仕事が世に残る、誇りを持てる仕事が建設業」と訴えた。

最後に、これからの仕事のあり方として、業種に関係なく、かつては想像もできなかったような職業が出てくる、あるいは造り出せるとした上で「共通するのは、人を喜ばせること、やってもらって嬉しいこと、自分にはできないがやってくれたら助かること、すなわち誰かのためになることが仕事になるということ。このような仕事に就くためには、自分の能力を高めていく努力を続けることが必要」とアドバイスし、講演を締めくくった。

<若林健嗣氏 (日本海電業㈱代表取締役)>

若林代表はまず「おいしそうなくだもの」「カッコいい乗り物」を描くゲームを行い、描いたことがデータ化という行為であるとし「データとは、伝えることを目的に対象物を情報で記述したもの。多くのデータが集まると、その関連性によって意味が生じる」と語りかけた。さらに、データの強みは伝える・保存できることや関連づけた分析ができることに加え、人の行動を変え、人間の活動を助け、SDGsなど様々な分野で良い効果をもたらしている」と強調した。



次に、現代はデータとその活用技術に関わらずに生きることはほぼ不可能であり、データの良い面・悪い面に向き合わなくてはならないとし「バーチャルの存在がかつてないほど大きくなっている。SNSなどのアカウントを持つ人は、ネット空間上にバーチャルな存在を保有している。バーチャルばかりに時間を割かず、リアルを大事にして」と訴えた。さらに「みなさんは既に、バーチャルな存在、データの一部になっていることを自覚し、データに流されず道具として使う術を学ぶことが必要」と説いた。

最後に、「リアルとバーチャルが二重につきまとう時代、何が大事かを見極めることが必要。自分のリアルを大事にすると同時に、他人のリアルへ敬意を持とう」とアドバイスした。

課外授業 生徒の感想（高岡市立南星中学校：抜粋）

- ・色々な事にチャレンジして興味があることを増やしていきたい
- ・これまで、後悔や反省、生きる意味を何度も考えたことがあった。何が正しいのかわからずにいたが、授業を受け、まるで心の霧が晴れるような清々しい気分になった
- ・夢中になれるものを探すと「人生のバターボックス」に立つことがとても大切と分かった、感動した
- ・建設業は人の役に立つ大切な仕事ということがわかった。いつもお世話になっているので感謝したい
- ・まだやりたい仕事が決まっていなくて、これからたくさん考えようと思える授業だった
- ・デザインとは美術的なものと思っていたが、目的を必要とすることと知り、今までの景色が変わった。これからは概念に囚われず、自分の考え方・生き方を明確にしていきたい
- ・生きる上で大切なことをたくさん教えてもらえ、とてもためになった。なんだか、自分の人生が切り拓けそうな感じがしてきた、本当に最高の授業でした
- ・私もそろそろ、将来のことをしっかり考えたいと思った
- ・仕事をする上での目標を聞いて、やる気が出た
- ・（講師の会社の仕事は）人のために尽くせる、とてもいい仕事だと思った。僕も、人のために尽くせる仕事がしたい
- ・父が建設業をしているので、詳しく知れてよかった。どれだけ大変なのかわかったし、身の回りでもどんな所に活かされているかを聞いてよかった



プレゼンテーション力を磨く ～課外授業“参観”～

令和3年12月3日（金）に高岡市立南星中学校において開催した課外授業を対象に、講師および教育問題委員会委員 計10名が課外授業を参観した。教育問題委員会のうち課外授業制度拡充をテーマとしたグループにおいて「講師のプレゼンテーション力をより向上させることが必要。その際、他の講師の授業を見ることは大いに勉強となる」との議論を受け、学校側の理解・協力をいただき実施した。聴講者は皆、自身の講演を今後よりよいものにしようと熱心に聞き入っていた。



熱心に参観

第17回 富山市立山室中学校

令和3年12月10日（金）、遊道義則氏（㈱ユニオンランチ取締役社長）が富山市立山室中学校において、1学年187名を対象に「夢を持とう、追いかけて、そしてかなえよう ～夢と目標と目的と…～」と題し課外授業を行った。

遊道社長ははじめに「あなたの夢は何か」について、隣の生徒に話してみるよう問いかけた。話したこと・聞いたことに対し「同じ題目で話しても、①なれたらいい、②なりたい、③なること、はそれぞれ、①は希望、②は欲望、③は目標を意味する。言葉は不思議であり、とても大切」と語りかけた。

次に、人生で大事なことは①決めること（どうしたいのか）、②分かち合うこと（したこと、感じたことを）、③正直なこと（真実を言う）であるとし「これからの人生は選択の連続。起きてしまったことや過ぎた時間は元に戻らない

が、そのことにどんな意味を付けるかが重要であり、努力したものだけが得られる”習慣”となる」と訴えた。そして「人生とは、常に何かを選択しながら知識や能力、技術などを向上させ、幸福を追求し続ける旅である」と説いた。

最後に、成長とはできなかったことができ、知らなかったことがわかり、気づかなかったことに気づくことであるとし「自分を卑下することや現状に満足することなどは成長を妨げる。自分の可能性を信じよう、持てるだけの選択肢を持とう、そして何事にも挑戦しよう。そして、大きな夢を持とう」とエールを送り、講演を締めくくった。



「常にアンテナを高くし喜怒哀楽を大切に、感性を磨くことが重要」と遊道社長

「ピンチをチャンスに変える」

森藤正浩氏・富山県中学校長会 研究大会で講演



森藤社長

令和3年11月10日(水)、森藤正浩氏(正栄産業㈱取締役社長)が令和3年度富山県中学校長会 研究大会にて県内中学校長77名を対象に「リーダーとしての、アントレプレナーシップ」と題し講演を行った。

森藤社長は、自社の事業や26歳で起業したことなどを紹介すると共に、リーダーシップと人材育成についてエピソードを交えて語った。

(1) 起業

22歳で起業を決意した動機は不純なものだった。アルバイト先の設計事務所社長宅に4年間、住み込みで働いた。休みも給料も無かったが、この時に建築の面白さに触れた。

当初は若さとやる気と覚悟しかなかった。現場作業の傍ら営業も行い仕事は頂いたが、人の確保が難しかった。次第に何のために働くのかを考えるようになり、仕事への考え方も自己の欲求の実現から相手へと変わり始めた。ピンチはチャンス、自分をどう変えられるかが重要である。

(2) 転機

起業5年目の頃、取引先が倒産し資金繰りに苦慮し

た。苦悩の中で「自身に起こることは全て自分で決めたこと。どうせ苦勞するなら納得できる苦勞をしよう」と考えた。一生懸命だけでは社員も会社も守れない。経営者に最も大切な「決めること」の重さを痛感したこの一件があったからこそ、今があると思っている。

(3) 組織づくりの重要さ

組織をつくらなければ良い仕事はできないと思い、著名経営者の著書を多数読んだ。社長の役割はビジョンを示し伝えること、社員の役割はこれを形にすることと記されており、その徹底が重要と感じた。強い企業風土の根幹には徹底力があると考えている。

振り返れば、起業以来「ピンチをチャンスに」と思い続けて行動してきた。

最後に「中学生に伝えてほしいこと」として①自分を信じて未来に挑戦しよう、②限界をつくらず、大きな夢を描く“心の才能”が重要、③アントレプレナー精神を挙げ「人間は生まれながら、自らの人生を切り開く能力を持ち、信じた通りに人生は成る。常に自分を信じて未来に挑戦してほしい」とメッセージを贈り、講演を締めくくった。



遊道社長

「社員のエンゲージメント向上が働き方改革の本質」

遊道義則氏・高岡市小中学校教務主任会研修会で講演

令和3年11月11日(木)、遊道義則氏(株ユニオンランチ取締役社長)が高岡市小中学校教務主任会研修会にて、教務主任47名を対象に「働き方改革について～私の思うところ～」と題し講演を行った。

遊道社長は、自社の事業や当会働き方改革委員会での活動等を紹介した後、働き方改革に関する自身の考え方を、自社でのエピソードを交え語りかけた。

(1) 働き方改革とは何か

少子高齢化が背景に挙げられるが、少子化と高齢化は異なる問題。生産年齢人口の減少は、労働力の補強という点を鑑みると、高齢化よりも少子化が大きく関係すると捉えている。就業機会の拡大や能力を発揮できる環境づくりも重要だが、最も取り組むべきは企業の生産性・収益性向上である。

(2) 働き方改革は本当に必要なのか

労働者不足や出生率低下、労働生産性の低さなどについても、それが指摘される背景の整理が重要。ニートなど働かない人の増加や便利になり過ぎることは労働者不足を助長し、晩婚化や核家族化は労働と育児の両立を難しくし、引いては出生率を低下させる。正社員とパート・アルバイトは区別であって差別ではないが、働きながら子育てがしやすい環境づくりは企業

も一層努力すべきと考えている。

働き方改革をある程度推進しないと若い人材を採用できない一方、自社の仕事は社会的意義があり、地域社会への貢献という誇りと自覚を持っている。働き方改革とは、経営者自身の経営改革である。

(3) 当社の現状と展望

日本の男性の平均労働時間が年2,281時間に対し当社は約2,700時間であり、努力が必要である。パート従業員の待遇差はなく、正社員へも登用している。多様な働き方実現の取組は要継続と考えており、休暇や福利厚生など制度面は概ね対応した。企業内育児施設はぜひ設置したいと考えている。

(4) 成果(生産性)を上げるには

自身の職業に誇りと自覚があるからこそ、働き甲斐がある職場にしなければならない。生産性向上や成長の仕組みづくりは、経営者と社員との最高のコミュニケーションによる社員のエンゲージメント(会社への愛着・思い入れ)向上こそ、働き方改革の本質であると考えている。

最後に「子供達に日本の未来がかかっており、その子供達は先生にかかっている。自信と誇りを持ち、自分らしさを発揮してほしい」と激励し講演を締めくくった。

教育現場で奮闘する次世代リーダーへのメッセージ

高野二郎氏・東澤善樹氏・森弘吉氏・柳川三千代氏 中堅教諭等資質向上研修で講演



高野社長

<高野 二郎 氏>

高野社長はまず、自己紹介としてIT企業から建設業へ転職した経歴、当会教育問題委員会での活動を通じ、家庭・学校・企業教育の連携や人づくりの重要性を実感したことなどを紹介した。次に、組織のリーダーとしてありたい姿を今も追い求め続けているとし、自身が考える「リーダーとは」について語りかけた。

(1) リーダーとは

リーダーとは「よい結果を導く人」であると考えている。稲盛和夫氏より人生成功の方程式として、人生・仕事の結果 = 考え方 × 熱意 × 能力であると教わった。このうち熱意と能力のレンジは0～100点だが、考え方は-100～100点である。よい結果を導くには、人として正しい考え方を持つことが必要である。

(2) リーダーとしてのありたい姿

①方向性を示す

リーダーには、チーム・組織のビジョン、ミッション、バリューを示し、達成のための計画とプロセスを明らかにしモチベートしていくこと、見直しながらこれを

徹底していくことが求められる。当社では機会を捉えて、ビジョンを社員と共有し動機付けを行っている。

②人格を磨く

この人についていきたい、支えたいと思われる人になることが重要であり、事業を推進する勇氣、英知、熱意が必要。これを養うべく、利他・感謝の心や仲間と苦楽を共にすること、オープンマインド(自由で前向き、素直な心、異質を受け入れる)、変化に対応できる健全な危機意識を持つよう心掛けている。

③人を育てる

野村克也氏は「財を残すは下、仕事を残すは中、人を残すは上」と語った。すべての原動力は人である。社員一人一人の個性・多様性を伸ばす風土づくりを目指し、試行錯誤の中だが日々考え取り組んでいる。自ら考え、良心に従い行動するなど社員の成長が会社の成長につながると考えている。

最後に、自身の仕事観を明文化したことを紹介し「仕事上悩むこともあると思うが、あるべき教師像を明文化し心の柱を創ることで、子供達とどう向き合うかを考えられるのではないかとアドバイスし、講演を締めくくった。



東澤社長

<東澤 善樹 氏>

東澤社長はまず、自己紹介として事業内容や当会環境問題委員会委員長としての活動などを紹介した。次に、リーダーに求められる資質について、ディクテーション(書き取り)を取り入れながら語りかけた。

(1) リーダーとして心掛けていること

①やりたいこと、ビジョンを声に出す:メンバーに理解・協力してもらうため、積極的に表現するよう努めている

②説明を尽くす、リアクションを返す:出された意見一つ一つをよく聞き咀嚼し、リアクションを返すことで自分の理想・ビジョンの中に取り込むと共に、相互理解を得るきっかけとなる

(2) ディクテーション:行動力基本動作10か条

(以下、講演にて強調した点のみ抜粋)

第1条 ぐずぐずと始めるな、時間厳守。行動5分前には、所定の場所で仕事の準備と心の準備を整えて待機せよ

時に、様々な難しい問題も生じる。機が熟すのも大事だが先送りしては何も始まらなく、積極的に考えて取り組むことが大事。5分前にはその場所に着き、話す内容などのシミュレーションは重要である。

第8条 いかなる困難に直面しても目的を放棄せず、時が深更(しんこう)に及ぼうとも最後までやり遂げる不退転の強い意志を持って

そのくらいの気持ちで取り組むからこそ、成果が得られるのではないかと。不退転の強い意志が上司や部下へ伝わることは重要である。

(2) ディクテーション:指導力10則

(以下、講演にて強調した点のみ抜粋)

2 管理者は先頭に立たねばならぬ。導く者は前にいる、「常に」という言葉と共に、泥にまみれて失態をさらせ失敗があつてこそ学びがあり、より高みにたどり着ける。リーダー自ら先頭に立ち、失敗から共に学ぶことが重要である。

9 管理者は部下を育てねばならぬ。朝に夕にそれを成せ。部下を育てずして、どうして業績を挙げ得ようか

自分でやってしまうと、部下の成長の芽を摘み取ってしまう。「やってみ」くらいの気持ちで仕事を与え結果を挙げてもらう。成果が出れば褒め、出なければその原因を一緒に考える姿勢がリーダーには求められる。

最後に「例えば垂直目線から水平目線へなど現代風の解釈も必要だが本質は不変。ディクテーションした項目を時々読み返し、教師としての基本の部分に役立てて欲しい」とエールを送った。

令和3年11月24日(水)、高野二郎氏(タカノ建設(株)取締役社長)、東澤善樹氏(とうざわ印刷工芸(株)取締役社長)、森弘吉氏(株エムダイヤ代表取締役)、柳川三千代氏(株モーヴ代表取締役)の4氏が、経験年数11年目の教員54名を対象とした中堅教諭等資質向上研修(富山市教育委員会主催)にて「組織のリーダーとは」「若手の育成」をテーマに講演を行った。



森代表

<森 弘吉 氏>

森代表はまず、自己紹介として自社の事業内容を紹介。海外でのエピソードを基に、日本の常識は必ずしも世界ではそうとは限らないとし、自身の常識観を他者と比べて考える視点の重要性を説いた。次に、日頃心掛けている考え方・価値観について、自身の経験を踏まえ語りかけた。

(1) なぜ「考え方」が必要か

稲盛和夫氏は(人生の)成功 = 能力 × 熱意 × 考え方であり特に、考え方が重要と説いた。米国の作家ステイブン・R・コヴィは著書「7つの習慣」で、成功とは自分の思い描く人生を歩めることと定義している。人として正しい考え方を持つことが重要である。

(2) 日頃心掛けている考え方・価値観

①信頼関係を築く

信用とは過去の実績に基づき信じること、信頼は未来に向けて根拠なく任せることと捉えている。特に、信頼される人であるよう心掛けている。

②人との出会いやご縁を大切に

多くの出会いやご縁が人生観・価値観形成に寄与している。結果的に人は、人からしか磨かれないと思う。

③時間の使い方～前出「7つの習慣」より～

緊急ではないが重要な領域(人間づくり、勉強や自己啓発など)をどれだけ増やせるかで人生の成功度が決まる。この領域を充実させることはとても重要である。

④変化への対応

ダーウィンは「進化論」で、この世に生き残るのは変化に対応できる者と説いた。以前は会社に許可を得てテレワークしていたが、今はその逆であり、常識となりつつある。変化への柔軟な対応が重要である。

(3) リーダーとして心掛けている考え方、努力すべきこと

リーダーシップを直訳すると「対人影響力」となる。リーダーシップには良いものと悪いものがあり、相手に良い影響を与えるリーダーシップが求められる。

リーダーとして努力すべきこととは、①情報収集と交流を通じ、理解と納得を繰り返し一生涯学び続けること、②繰り返しプレずに表現を変えながら考え方を伝えていくこと、と考えている。

最後に、学校教育や教師に期待することとして①生きる力を身に付けさせてほしい、②小さな成功体験を積み重ね、自信をつけさせてほしいとし「生徒は学校で知識と経験を得ると、智慧が生まれる。智慧を使える人の育成は重要。そのためにも、多くの失敗を経験させそこから学べるよう、失敗に寛容であって欲しい」とアドバイスした。



柳川代表

<柳川 三千代 氏>

柳川代表ははじめに、東京大学野球部が今年、64連敗を脱出し4年ぶりに勝利したことを紹介。実力の高い選手はいないが新監督就任や分析チームの結成、他大学とは違う戦術が背景にあるとし、リーダーの役割や若手育成にも通じると語った。次に、組織のリーダー、若手の育成について、自身の経験や考えていることを交え語りかけた。

(1) 夫の急逝から学んだこと

明日が今日と同じようには存在しない、当たり前と思うことは決して当たり前ではなく有難いこと、人の悲しみが本当の意味でわかるようになったなど、多くの学びを得た。これ以降、辛いことや悲しいことは「人生の修行」と捉え、乗り越えるよう取り組んでいる。

(2) 組織のリーダーとは：リーダーとして特に重要な要素

①判断力：とりわけ、軌道修正を伴う判断力が重要であり、迅速に行えることが必要。判断に迷った時は考え抜いた上で、自分の心に正直な方を選ぶこととしている

②覚悟：最悪の状況を想定の上で覚悟を持ち、これ以降はブレないよう心掛けている

③人間力：リーダーには人の心を動かす人間力が求められる。人を動かすには、人の悲しみを理解する心や感謝の想いを持つことが重要である

(3) 若手の育成：特に重視していること

①プロとしての自覚を持ってもらう：素人とプロとの違い、お金を頂いて仕事をする意味などプロ意識を醸成するよう指導している

②個人の得意なことを伸ばす：社員各々に得意な部分、強みがあり、個人の能力を一律には評価しないこととしている。一人一人の得意・不得意を見極め、尊重・理解(わかっているよ、という想いを伝える)するよう努めている

③心が折れないようフォロー：壁にぶつかった時、心が折れるか乗り越えられるかは、本人の努力も大事だが先輩・上司のフォローも大きく影響する。思いやり、愛情を持って接することが重要である
最後に、学校教育や先生に期待することとして「我が国の科学技術力に衰退が見られる中、学びたい意欲のある子どもには、レベルの高い内容も積極的に教え、個々の能力を伸ばしてあげてほしい」とアドバイスを送り、講演を締めくくった。

ミドルリーダーへのメッセージ

高瀬幸忠氏 中堅教諭等資質向上研修で講演



高瀬社長

令和3年11月24日(水)、高瀬幸忠氏(株)スカイインテック取締役社長)が、経験年数11年目の教員186名を対象とした中堅教諭等資質向上研修(富山県教育委員会主催)にて「ミドルリーダーとしての自覚(役割)」と題し講演を行った。

高瀬社長はまず、日頃から①Just try!(とにかくやってみよう)、②ご縁に感謝、③テーマを持つ(世の中の役に立つ、あきらめないなど)を大切にしていると紹介し、組織の中心的役割を担うミドルリーダーに求められる要素について語りかけた。

1. ミドルリーダーに要求されること

(1) マネジメント

リーダーとして、組織の総力を最大化し最高の成果を挙げることがマネジメントの極意の一つ。声が大きい、自身の意見を押し込む意味での強いリーダーは組織を率いる力とはならない。反対意見・フロンティア精神溢れる意見を取り込む度量の大きさも必要である。

(2) 伝える力

上向き(対上司)には取捨選択する力、下向き(対部下)には展開する力を指す。個人にとってではなく組織の損得で取捨選択することが必要である。

(3) データ収集・分析力

事象を客観的・定量的に示すことが求められる。KPI(重要業績評価指標)やKGI(重要目標達成指標)を意識すると共に、特定の者でなければできない業務(ひとり仕事)を無くすことが重要である。

2. SDGsとデジタルトランスフォーメーション(DX)

SDGsは「変革」と「誰ひとり取り残さない」がキーワード。変革とはより良くするため変えていくことに挑戦すること、よい伝統を受け継いでいくことである。また「誰ひとり取り残さない」には「何一つ取り残さない」が含まれると考える。生徒さんだけでなく皆さんもDX社会の中心人物。先のことはわからないと言わず、SDGsに積極的に関わってほしい。

3. リーダーに必要な資質(事例をもとに)

リーダーには①人材育成、②選択、③伝える、④定量性、⑤反対意見(を取り込む)、⑥スピード、⑦現場主義、⑧ネットワークづくり、に関する資質が求められる。これらを意識し、良いリーダーとなって欲しい。

最後に、良縁と感じる感性やそれを広げる発信が重要とし「いろいろなご縁に感謝しつつ、これを生かせるよう日々努力しよう」とエールを送り、講演を締めくくった。

今後の活動について議論

～第2回教育問題委員会～

第2回教育問題委員会(高瀬幸忠委員長)が12月20日(月)、富山電気ビルディングにて開催され、委員22名が出席した。

冒頭、高瀬委員長より「コロナ禍で活動に影響が生じているが、あまり慌て過ぎず、かつゆっくりし過ぎず進めていきたい。今後の活動に対し、みなさんには活発に議論をいただきたい」と挨拶があった後、11月12日(金)に開催された富山県教育委員会との意見交換の概要や各グループの活動経過が報告された。

委員からは「教員との交流機会は貴重、積極的に場を創るべき」「課外授業のメニューづくりは一層の利用を図る上で有効」「課外授業講師として、話し方のポイントを教わることが大事、研修会を開催してはどうか」「総花的では

なく、ポイントを絞った議論・検討も必要ではないか」など、前次委員会にて策定した提言の実践はもとより、今次委員会における新たな取組の推進に向けた建設的な意見が多数出されるなど、盛会となった。



高瀬委員長



意見交換

ハイブリッド形式の取入れなど

～ 第2回委員長会議 ～

11月9日(火)、令和3年度第2回委員長会議がホテルグランテラス富山で開催され、常任幹事以上の役員と各委員会の委員長ら18名が出席した。

牧田和樹副代表幹事が会議を進行。各委員長から今期の委員会の進捗状況と今後の活動予定について説明があり、その都度質疑応答を交えながら活発に意見交換を行った。

今後の講演会は、出来る限りオンライン視聴可能なハイブリッド形式とし、録画した講演を当日視聴できなかった会員が後日視聴できるよ

う講師に交渉してもらいたいとの意見が出された。

また、これまで常任幹事会で検討していた会員定例会の講師を、来年度からは各委員会で選定することになった。



大分経済同友会が来県

11月8日(月)、大分経済同友会ダイバーシティ委員会の委員8名が富山市の関係人口増加・シビックプライドと当会の課外授業講師派遣制度についての知見を得るため来県し、富山県民会館会議室において塩井保彦代表幹事、牧田和樹副代表幹事、森雅志氏が応対した。

塩井代表幹事と大分経済同友会の加藤一郎ダイバーシティ委員長が挨拶した後、森前富山市長がレクチャーした。

森氏は19年間の市政を振り返り、人口減少時代にあって若者の負担感が増加しないように、「公共交通を軸としたコンパクトなまちづくり」を基本政策に、中心市街地の活性化など魅力あるまちづくりを推進してきた。市民のシビックプライドも徐々に上昇しており、20年前はタクシードライバーに「富山の美味しい所はどこですか？」と聞いても「それは金沢に行かないとダメですね。」と返答していたのが今では、「ご予算はお時間はどれくらいありますか？富山湾鮎はいかがですか？」と答えるようになったり、富山市民が富山へのUターンや移住・定住を勧めるようになってきたと語った。

また、森氏は富山市在住の65歳以上の方が市内各地から中心市街地にでかける際に、公共

交通機関を1乗車100円で利用できる「おでかけ定期券」を紹介。高齢者の外出機会の創出による健康増進と医療費削減効果も期待でき、大分経済同友会に大分市への提案を勧めた。



続いて、大分経済同友会から7つある委員会の活動と、今年度からダイバーシティ委員会が実施している大分市内の中学校への「企業リーダーによる地元愛職業講座」(出前授業)について説明があった。

最後に大分経済同友会より当会の課外授業講師派遣の取組みについて数々の質問があり、牧田副代表幹事が回答した。

第81回あけぼの会ゴルフコンペ

— 優勝は川口 義春氏 —

11月21日(日)、呉羽カントリークラブ立山コースにて、第81回あけぼの会ゴルフコンペが開催され、59名のあけぼの会会員が熱戦を繰り広げた。今回、新型コロナウイルス感染拡大対策として、表彰式・懇親会は開催せず、ラウンドのみを実施した。

優勝の栄冠はネット71.0、グロス84で川口義春氏(株サンセイ)が獲得し、優勝賞品として、県内で活躍するガラス作家の作品(花器)と、厳選富山県産こしひかり計15kgが贈呈された。

また、麦野・塩井両代表幹事から代表幹事賞の提供があり、麦野代表幹事賞は成伯 武氏(株ナリキ)が、塩井代表幹事賞は森 幹男氏(森商事株)が受賞し、それぞれに富山県ゆかりのガラス作家によるペアグラスが贈られた。

穏やかな小春日和のなか、和気あいあいとし

た雰囲気プレイが行われ、各組では一層の親睦が深まったことが伺えた。

ラウンド終了後には「飛騨牛 すき焼き肉」が参加賞として手渡され、賑やかな食卓を想像しながら、皆清々しい余韻とともに呉羽カントリーを後にした。

(敬称略)

順位	氏名	OUT	IN	GROSS	HDCP	NET
優勝	川口 義春	45	39	84	13.0	71.0
準優勝	永井 秀宗	49	43	92	20.1	71.9
3位	渋谷 清澄	47	38	85	13.0	72.0
4位	山本 寛	44	46	90	17.8	72.2
5位	大野 賢治	42	46	88	15.4	72.6





フーテンの寅

林 和 夫

(朝日建設株式会社 取締役社長)

今年の干支が寅ということでこのタイトルにしたわけではありません。渥美清という役者が大好きなので、映画「男はつらいよ」での渥美清のことを書こうと思ったのです。

私が渥美清を知ったのは、60年ほど前、私が中学生だったころ、土曜日の夜NHKテレビで放送された「夢であいましょう」でした。この番組から生まれた歌が坂本九の「上を向いて歩こう」や梓みちよの「こんにちが赤ちゃん」でしたが、司会を務めたのはファッションデザイナーの中島弘子さんでした。彼女が頭を右横40度ほどにかしげで「みなさん、こんばんは」と挨拶するのが上品だと評判でしたが、上品な中島さんの前に突然現れておかしなことを言って彼女を身もだえするほど笑わせたのが、コメディアンとして売り出し中だった渥美清でした。毎回その様子を見ては、何とも面白い役者だと思ったものです。

「男はつらいよ」は1969年から1995年までの26年間に全48作が公開されましたが、私は映画館やテレビで観たのは2作ほどで、それほど関心があったわけではありませんでした。ところが昨年正月から5月のGWまでかけて毎週3本ずつ特別編を含めた全49作のブルーレイDVDを観たのです。

きっかけは、一昨年暮れ、寅さんが持ち歩いているおなじみの皮のトランクに「男はつらいよ」全49巻やスタッフジャンパー、シナリオ、ピンバッジセット、全49作のレプリカポスターなどが入っている「男はつらいよ 50周年記念復刻“寅んく”」発売の広告がお堅い朝日新聞に載っていたのを見て、「夢であいましょう」の渥美清が思い出され、税込みで20万円ちょっとでしたが即注文したのでした。

自宅のテレビで「フーテンの寅」を観ながら私は多くのことを学びました。

甥っ子の満男に「何のために勉強するのか？」と問われた寅さんは、「人間、長い間生きてりゃいろんな事につぶかるだろう。そんな時、俺みてえに勉強してないヤツは、振ったサイコロの出た目で決めるとか、その時の気分で決めるよりしょうがない。ところが、勉強したヤツは自分の頭で、きちんと筋道を立てて、“はて、こういう時はどうしたらいいかな？”と考える事が出来るんだ。だからみんな大学行くんじゃないか、そうだろう」と返しています。こんな風には考えもせず大学に入りました。

同じく甥の満男に「伯父さん、人間は何のために生きてんのかな？」と聞かれたとき「何とかな、”ああ、生まれて来て良かったな”って思う事が何べんかあるじゃない。そのために生きてんじゃねえか？ そのうちお前にも、そういう時が来るよ。まあ、がんばれ」。言われてみれば、私にも何度かありました。

他にも「思ってるだけで、何もしないんじゃない、愛してないのと同じなんだよ」、「人生についてよく考えろって。ほけっとしてる間に、あつという間に骸骨になっちゃうんだから、人間は」。二つともその通りですね。

また、俳句が風天の渥美清は生涯に270首の俳句を詠みましたが、私は「お遍路が一行に行く虹の中」、「秋の野犬ぼつんと日暮れて」が好きです。

では、渥美清が歌う「人は誰でも」を聴きながら筆をおきます。

(次号は北陸ミート(株) 代表取締役の
押川実恵 様です。)

活動報告

11月1日～12月31日

○幹事会・定例会等

開催日時・場所	内 容	出席者
12月7日(火) 17:00～20:30 ANAクラウンプラザ ホテル富山	12月会員定例会（企業経営委員会主管） 講師：アイリスオーヤマ株式会社 代表取締役会長 大山 健太郎 氏 演題：「いかなる時代環境でも利益を出す仕組み」 年末懇親会	約200名

○委員会

開催日時・場所	委員会名	内 容	出席者
11月3日(水・祝) スケッチラボ 13:00～17:00	人財活躍委員会	スケッチオーデイション開講	2名
11月5日(金) 9:00～17:30	企業経営委員会	第9回ごきげんよう職場訪問 (株)エムダイヤ、YKK AP(株)	20名
11月9日(火) 17:20～20:00 ホテルグランテラス富山	企画総務委員会	新会員歓迎オリエンテーション・ 懇親会	63名
11月17日(水) 16:30～20:30 事務局会議室他	地域創生委員会 第6回正副委員長会議	・フィールドワーク：フォトコンテス ト、冊子・サイトの作成について ・今次活動進捗状況・今後の計画につ いて ・県外視察について	11名
12月1日(水) 13:00～14:30 事務局会議室	人財活躍委員会 第5回正副委員長会議	・とやナビプロジェクト2022について ・高度人材活用に関するオンラインシ ンポジウムについて ・スケッチオーデイション報告について ・ワーケーション実証試験について ・『女性活躍・キャリア形成』に向け た進め方について	11名
12月17日(金) 16:00～17:30 パレブラン高志会館	第3回人財活躍委員会 (拡大委員会)	・高度人材活用に関するアンケート 調査結果 ・講演会（オンライン） 講師：株式会社ヨンイチ 代表取締役社長 高梨 洋一 氏 演題：「地方企業の海外ビジネス 展開における高度外国人材 の活用」 ・ジェトロの取り組みについて ジェトロ富山 所長 高村 大輔 氏	70名
12月20日(月) 17:00～20:10 富山電気ビルディング	第2回教育問題委員会	・富山県教育委員会との意見交換概要、 今後の対応について ・各グループ経過報告 ・1月以降の委員会について	22名
12月22日(水) 15:00～20:00 事務局会議室他	地域創生委員会	・フィールドワーク フォトコンテスト審査会	9名

○課外授業講師派遣

開催日時	学 校	対 象	講師・演題
11月9日(火)	射水市立中太閤山小学校	6学年 59名	遊道 義則 氏 「夢を持とう、追いかけてよう、そして叶えよう～夢と目標と目的と…～」
12月3日(金)	高岡市立南星中学校	2学年 172名	荒井 洋平 氏 「問題解決の方法としてのデザイン」
			碓井 一平 氏 「自由に生きるために必要なお金」
			尾山 謙二郎 氏 「生きる力」
			京田 憲明 氏 「公務員として働くということ」
			土屋 誠 氏 「あなたは将来、どのような仕事に就きたいですか？」
			羽根 敬喜 氏 「働くこと～私の社会人としての歩みについて～」
12月10日(金)	富山市立山室中学校	1学年 187名	開 章夫 氏 「まちをつくる建設業と災害対策」
			若林 健嗣 氏 「通信と防災、デジタルツインの社会」
12月14日(火)	富山県立富山高等支援学校	全学年 52名	遊道 義則 氏 「夢を持とう、追いかけてよう、そして叶えよう～夢と目標と目的と…～」
12月14日(火)	富山県立富山高等支援学校	全学年 52名	上田 信和 氏 「夢に向かって付けたい力」
12月16日(木)	富山県立雄山高等学校	1学年 150名	川合 紀子 氏 「働くこと、学ぶこと」

○同友会諸会合

開催日	内 容	場 所
11月4日(木) ～5日(金)	(公社)経済同友会ワーケーション実証実験 受入れ	ギャルリ・ミレー、 HATCH 他
11月8日(月)	大分経済同友会との意見交換会	富山県民会館

○その他の会合

開催日	内 容	場 所	出席者
11月2日(火)	富山県ボランティアセンター 令和3年度第1回運営委員会	富山県総合福祉会館	有藤事務局長
11月8日(月)	富山市総合計画審議会 第2回全体会	Toyama Sakura ビル	麦野代表幹事
11月9日(火)	第2回委員長会議	ホテルグランテラス 富山	18名
11月10日(水)	富山県中学校長会 令和3年度研究大会(講師)	パレブラン高志会館	森藤 正浩 氏
11月11日(木)	高岡市小・中学校教務主任会研修会(講師)	戸出コミュニティ センター	遊道 義則 氏
11月11日(木)	令和3年度「第2回とやま地産地消県民会議」	パレブラン高志会館	有藤事務局長

開催日	内 容	場 所	出席者
11月12日(金)	富山県教育委員会との意見交換会（第2回）	富山県農協会館	高瀬教育問題 委員長 他 計 6名
11月15日(月)	第2回富山県女性活躍推進戦略会議	富山県民会館	中澤人財活躍 委員長
11月21日(日)	第81回あけぼの会	呉羽カントリークラブ	59名
11月24日(水)	中堅教諭等資質向上研修(富山市教育委員会) (講師)	Toyama Sakura ビル	高野 二郎 氏 東澤 善樹 氏 森 弘吉 氏 柳川 三千代 氏
11月24日(水)	中堅教諭等資質向上研修(富山県教育委員会) (講師)	富山県総合教育 センター	高瀬 幸忠 氏
11月25日(木)	第4回あいの風とやま鉄道新経営計画検討 ワーキンググループ	富山県教育文化会館	有藤事務局長
12月16日(木)	あいの風とやま鉄道利用促進協議会幹事会	富山県民会館	有藤事務局長



フィールドワーク冊子、大学での講義テキストに！

本年4月に地域創生委員会が発行した、フィールドワークを題材とした冊子「富山の経済人が本気で考えて実際にしてみた！とやま半日観光コース」が、富山大学地域課題解決型人財育成プログラムにおける授業科目「産業観光学」の参考テキストとして活用された。

本講義は、産業観光の視点から富山県経済発展の可能性や既存産業の再生・新産業の創出による県内企業が培ってきた進取の気性、郷土愛を学ぶことをねらいとしており、外部講師による講義やグループワークによる県内を巡る観光プランの作成などで構成さ



冊子作成経緯等の説明

れる。

令和3年12月13日(月)、第1回グループワークにおいて山本覚委員長が冊子の作成経緯や冊子に込められた想いを説明し「主たる訪問地を核に、行程全体のテーマ・コンセプト



熱心にアドバイス

トを明確にすることがポイント。みなさんが感じたことをベースとした、素晴らしいプランが創られることを楽しみにしている」とエールを送った。

2022年前半の景気見通しは「緩やかに拡大する」

企業経営委員会（伊勢徹委員長）は、昨年12月に「第24回富山景気定点観測アンケート」を実施した。2022年前半の景気見通しや各社の業績予想、脱炭素経営、健康経営について158社（回答率39.1%）から回答が寄せられた。

主な項目

<p>◆2022年前半（1～6月）の景気見通しは？</p> <p>緩やかに拡大する 61%</p> <p>横ばい状態が続く 28%</p> <p>緩やかに後退する 8%</p>	<p>◆2022年1～3月期の売上高（予想）は？</p> <p>増収 32% 横ばい 52% 減収 16%</p> <p>◆2022年1～3月期の経常利益（予想）は？</p> <p>増益 32% 横ばい 41% 減益 27%</p>
<p>◆脱炭素経営の必要性は？</p> <p>大いに取り組む必要がある 40%</p> <p>ある程度、取り組む必要がある 54%</p> <p>あまり取り組む必要はない 4%</p> <p>全く取り組む必要はない 1%</p> <p>分からない 1%</p>	<p>◆健康経営の取り組み状況は？</p> <p>既に取り組んでいる 70%</p> <p>「健康経営優良法人」認定済 21%</p> <p>「健康企業宣言」認定済 27%</p> <p>これから取り組む予定である 19%</p> <p>取り組む予定はない 11%</p>

今後の予定

開催日	対象	行事	場所
1月31日(月)	全会員	1月会員定例会 講師：(株)日本M&Aセンター 専務執行役員 CCO 出前館 前代表取締役社長 中村 利江 氏 演題：『起業が富山を元気にする～ベンチャーから 2500億円ユニコーンに成長させた経験から～』	ホテルグランテラス 富山
3月7日(月)	幹事以上	3月幹事会	オックスカナルパーク ホテル富山
3月7日(月)	全会員	3月会員定例会 講師：東急(株) 交通インフラ事業部 戦略企画グループ 戦略担当課長 森田 創 氏	オックスカナルパーク ホテル富山
4月12日(火)	幹事以上	幹事会	富山電気ビルディング
4月14日(木) ～15日(金)	全会員	第34回全国経済同友会セミナー ((一社) 神戸経済同友会主管)	神戸市内
4月22日(金)	全会員	令和4年度定時総会・懇親会	A N Aクラウンプラザ ホテル富山

※新型コロナウイルス感染状況により、変更となる場合がございますのでご了承願います。

〔表紙写真〕

年末懇親会

アクリル板の設置やアルコール除菌シートの配付など、新型コロナウイルス感染防止対策を考慮して年末懇親会を開催した。

富山県市長会 会長（砺波市長）の夏野修氏に乾杯のご発声をしていただいた。

発行所

富山経済同友会

富山市牛島新町5番5号 インテックビル4階

電話 (076) 444-0660

F A X (076) 444-0661

e-mail:doyukai@po.hitwave.or.jp

http://www.doyukai.org/



1979年 明倫学館にて（一番右が筆者）



1978年 能登半島にて
（上の写真 右から二番目、下の写真 中央が筆者）



学生時代

GRN株式会社 専務取締役

小杉 康夫

私が大学に入学した1976年、日本では驚愕の出来事としてロッキード事件が起こり、また世界での主な出来事としてはベトナムの南北統一などがありました。国内の成長はまだまだ期待され明るい空気が漲る時代でした。

そんな中希望に燃える大学生活がスタートしました。住まいに選んだのが、明倫学館という文京区小石川にある3畳一間の寮でした。富山県、石川県出身者の為の寮であり現在も存続しております。この寮は113年の歴史があり、1期生には正力松太郎先生が1908年の名簿に名を連ねていらっしゃいます。更に入寮する為には、論文提出と面接があり規律正しい印象の寮でした。

ここで4年間他の寮生と共に暮らしましたが、当時寮生は130数名おり、色々なタイプの人々と出会い、ある時は酒を酌み交わし議論したり、ある時は徹夜でマージャンをしたりと、寮での思い出がほぼ半分くらいを占める形でした。

勿論大学の同窓の仲間、アルバイト先の仲間との交流もあり、そういう人との出会いが自分

を成長させてくれた大きなファクターになったと感じています。

当時の明倫学館は木造3階建てであり、北陸と違い頻繁に地震が起こり、古い建物だったことも相まって大変怖い思いをしました。

文京区小石川はほぼ東京都心に位置しており、朝、電車で武蔵小杉まで体育の授業を受けに行くとき電車内はガラガラ、反対方向の郊外から来る電車は恐ろしいほどのすし詰めで車窓ガラスにへばりつくように斜めになっている人を普通に見る事ができました。日本沈没という映画があって地震が怖い、恐ろしいまでの満員電車も絶対嫌で、迷わず私はUターンを選択し、卒業後は北陸コカ・コーラボトリング株式会社に入社し、39年間勤め、最後は常務取締役営業本部長を務め、現在はGRN株式会社専務取締役と若鶴酒造株式会社代表取締役社長を兼務しております。

思い返してみれば学生時代の様々な経験がその後の私の人生の大きな糧になったと思います。